

別記様式(第5条関係)

令和7年度第4回東海村高齢者福祉計画推進委員会 議事録

1 開催日時	令和8年2月18日 水曜日 午後3時00分から午後4時30分まで
2 場所	東海村役場 205会議室
3 出席者	【委員】 宮崎委員長，安田委員，丸山委員，松本委員， 矢代委員，今橋委員，山崎（香）委員，山崎（松）委員， 内藤委員，菊本委員，阿久津委員 【事務局】 （地域福祉課）古川課長，木梨課長補佐，ヴァキリ係長，青木主事 （保険課）瀬谷課長補佐，大内課長補佐，北崎係長，野内主事 （総合相談支援課）千葉課長，川上課長補佐
4 欠席者	土屋委員，砂押委員，岡村副委員長，清水委員，舟木委員，杉山委員
5 公開又は 非公開の別	公開
6 非公開の 理由	
7 議題	第9期計画 令和7年度の取組・実績に対する評価
8 配布資料	資料1 評価方法について 資料2 第9期計画 令和7年度評価 資料2 第9期計画 令和7年度評価 資料3 委員回答用 評価記入シート 資料4 評価結果一覧 資料5 評価の決定方法

9 発言内容	【次 第】 1 開 会 2 地域福祉課長挨拶 3 委員長挨拶 4 議 題 (1) 第9期計画 令和7年度の取組・実績に対する評価 ・評価一覧 …資料4 ・評価の決定方法について …資料5 ・実績評価シート …資料2 (2) その他 - 次回委員会について 【議 題】 (1) 第9期計画 令和7年度の取組・実績に対する評価 ○資料1に基づき、評価方法について事務局から説明 【説明要旨】 ・令和7年度の取組実績については、資料2の通り。 ・資料4において、各事業の評価分類が1（事務局評価と委員評価が全て同じ）または2（事務局評価と異なる評価の委員が2名以下）の事業については事務局評価の通りとする。 ・評価分類が3（事務局評価と異なる評価の委員が3名以上）または4（事務局評価と2段階以上異なる評価があるもの）になっている事業は、本委員会で事務局から説明を行い、質疑の結果、多数決で最も選択された評価とする。 <事業No. 20 地域支え合い体制整備事業> この事業は、複雑多様化した生活課題を解決するために話し合う場を設けているもの。第1層は村全体、第2層は小学校区の地区毎、第3層は単位自治区毎に話し合いの場を設けており、それぞれの地域に見合った課題解決の方法や社会資源を生み出すための仕組みを作り出す場になっている。村では、この事業を、生活支援コーディネーターを担う社会福祉協議会に委託している。主に協議体の設置に向けた働きかけや、生活課題の把握、課題解決のための協議を行っている。村としては、協議体がない地域へ設置の働きかけ（従来の方法に捉われず、既存の団体や地域で活動されている方々の活用等）や生活支援コーディネーターとしての本来の役割を踏まえ、地域の人的資源や物的資源（使える場所・公的機関・設備・もの等）、さらには社会資源等を見つけ出し、地域コミュニティやボランティア等と支援を必要とする方々を繋ぐ役割を担ってほしい。実際、協議体自体は開催されているものの、村が求めるところまで至っていないため、事務局評価はCとした。 山崎委員 実績を見ると、6学区中2学区開催されていないが、来年度舟石川学区で開催が予定されているとのことだったので、B評価ではないかと考えた。また、今の説明で協議体の設置の働きかけができていないという話だったが、そこまで評価を落とさなくても良いのではないかと考えている。 内藤委員 第1層協議体について、定期的な開催を通じて新たな資源活用につながってい
---------------	---

	ることもあり、体制整備の基盤として一定の成果が見られていると感じたため、B評価だと考えた。一方で、第2層第3層協議体では、新たな設置に至っていないこともあり、今後は地域単位での取り組み方が大きな課題だと思う。来年度の方角性として地域包括支援センターと連携した取り組みが例として挙げられている。地域包括支援センターが把握している相談内容や地域課題などを、地域住民の方と共有できるように、既存の会議などの地域の集まりに包括の職員を誘っていただければ、私どもの方でも積極的に参加して、意見交換を行い、協議体設置に向けて包括としても協力していきたい。 ➡多数決の結果C評価となる。 <事業No. 24「移動支援」についての対策協議> この事業のタイトルとして、対策協議を行ったことが評価対象になるものだが、昨年度までの協議を踏まえて、今年度実証実験を行った。無事に実証実験を終えたため、A評価とした。 安田委員 利用者や施設が利用してみて便利になったなどの反応を知りたかった。単にこの事業所に何回行ったということではなく、実証実験を行った利用者の反応も実績に入れてほしかったため、B評価とした。 阿久津委員 評価だけを見ると分かりかねる。実証実験の結果や事務局の考察も知りたかったためB評価とした。 内藤委員 実証実験は予定通りできたとのことだったが、そこからどのような結果や課題が把握できたのか資料から読み取ることができなかった。来年度はデイサービス共同送迎に限らず、広く高齢者の移動支援を検討するとあるが、その方向性に至った背景として、実証実験から得られた気づきや課題について、具体的に教えてほしい。この報告内容では不足していると感じたので、B評価とした。 事務局 実証実験を実施した結果、介護職員の労働時間の削減、負担軽減は一定程度確認できた。一方で、ドライバーや車両のコストが大きくなってしまいうデメリットがあった。共同送迎を行うにあたって、事業所職員の負担軽減に一定の効果が見られたが、村の費用負担が大きくなりすぎてしまうため、事業を取りやめるという運びになった。今後は、デイサービス共同送迎に限らず、高齢者の足の確保を行うことができる事業は他にもあるため、今後も検討していきたい。 ➡多数決の結果Aとなる。 <事業No. 25生活支援サービス事業（地域住民主体型訪問サービス事業）> この事業は、住民ボランティアによる軽微な家事支援サービス。利用対象者は、事業対象者と要支援認定者。これらの認定を受けている方は、ADLが自立しており、自分のペースで家事を行っている方が多い。元々このサービスを利用する方は少なく、今年度も利用者はいなかった。ただし、元々自立されて
--	--

	いた方でも、入院治療を行ったことで、退院後の家事に不安を感じ、何か支援はないかという問い合わせはある。利用希望がある方には、ケアマネジャーがこの事業を提案し、調整を行う。今年度も利用に向けて調整している中で、家事ができるようになったため、利用には至らなかったことがあった。実績としては0名だが、相談対応し、調整までさせていただいたため、B評価とした。 阿久津委員 サービスを提案し、働きかけもしていたので、A評価でいいのではないかと考えた。 安田委員 取組内容の中でケアマネに周知を行うとあったが、実際に周知したという記載がなかったのでC評価とした。 菊本委員 個人的に、このサービスがあったらいいと思っている。しかし、対象者が要支援認定や事業対象者であることから、実際に利用する場合には訪問介護が多くなってしまうことから、毎年利用に至っていない。事業として妥当性があるのかと考え、C評価とした。 事務局 軽微な家事サービスで対応可能な方のために、残しているサービスである。 ➡多数決の結果、B評価となる。 <事業No. 3 7 認知症初期集中支援推進事業> 認知症の方や認知症の疑いがある方の中で、医療や介護サービスに繋がっていない方や認知症によって日常生活に多大な影響がある方に対して、認知症サポート委員や認知症推進委員などの専門職で構成された認知症初期集中支援チームが適切な医療や介護サービスにつながるように支援していく事業。計画値が2種類あり、対象者の抱える課題に応じて関係機関と連携して対応し、医療や介護サービスにつなぐことができた件数は計画値に達している。しかし、医療や介護サービスにつながった実績値が計画値を下回っていることからB評価とした。要因としては、医療と介護サービスの両方を拒否するケースがあり、利用につながるまで、対象者や、その関係者との関係構築に時間がかかってしまうこと。一年度内に完結することは難しく、対応ケースがあっても、それら全て実績にはならない。 安田委員 医療や介護につながったケースが7件あったということでA評価とした。 松本委員 数値で評価することが難しい事業だと感じている。このチームが対応するケースは、医療も介護もどちらも拒否するような困難事例が多いと思う。そのようなサービスにつながるまで年単位かかるケースもあると思う。目標とするゴールに至らなくても、包括が介入できたということが評価できると思うので、A評価とした。
--	--

	矢代委員 チームが対応した件数が目標値10件のところ11件であるため、目標値は100%を超えている。医療や介護サービスにつながったケースは計画値が7件で、実績が6件であり、86%到達していることから達成していると考え、A評価とした。 阿久津委員 この事業のような働きかけは、数値だけで判断することができない事業だと思うので、A評価とした。 内藤委員 この事業の対象者は中～重度の認知症の方。認知症疾患センターにつなぐためには時間がかかる。計画値が7で実績値が6なので計画未達だが、内容の質や労力を考えるとA評価でいいと思う。 菊本委員 計画値に達していないから評価を下げるという考えは違うのではないかと考えている。何かあったとき、対象者や家族は様々あることから個別に伴走して対応することができることを、周知し実施できているということの評価してA評価とした。 事務局 委員の方々が数値では見えないところを評価していただいたことに感謝している。 ➡多数決の結果、A評価となる。 その他の事業について意見 特になし 全体を通しての意見 資料の文字の大きさが小さくて見えにくい。読むのに時間がかかってしまうため、工夫してほしい。 また、印刷方法も左右とじにしていただければと思う。 (2) その他 次回委員会について → 来年度の6月頃を予定 以上
10 結 果	第9期計画令和7年度の取組について委員会評価を決定した。
11 会議録内容確認	委員長 宮崎 勝

(注) この様式により難しいものにあつては、これに準じて適宜調整し、作成すること。